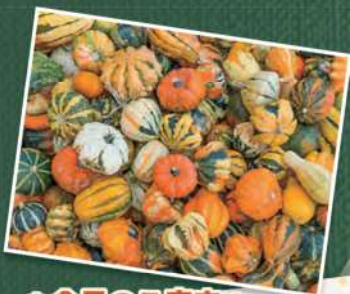


# CLCからしだね書店便り

CLC  
www.clc.or.jp



10

October  
2024  
no.46

## \*今月のご案内\*

- ① 連載第 10 回  
「子どもと大人のためのこころの対話—信仰と哲学」
- ② 今話題の本のご紹介『LGBTQ 聖書はそう言っているのか?』
- ③ CLCからしだね書店の秋のイベントのお知らせ
- ④ 読書感想本『それでいい。』自分を認めてラクになる対人関係入門
- ⑤ ノーベル平和賞のニュースを聞いて思い出した本  
『ヒロシマの少年じろうちゃん』

CLCからしだね書店では…

- ① キリスト教書だけでなく、福祉、心理、精神、哲学、児童書、その他一般の良書もそろえています。
- ② お洒落でかわいい雑貨や小物もあります。
- ③ ブックカフェとして、ドリンクやスイーツ、ランチも提供しています。ゆっくり本を読みながら、お過ごしください。
- ④ コーヒーを飲みにきてくださるだけでもけっこうです。
- ⑤ 図書コーナーも併設予定です。ドリンクを片手に、お好きな本を手にとってお読みください。
- ⑥ 古書のコーナーもあります。ほりだしものあります。
- ⑦ 読書会や著者を招いての講演会など、人と人が出会い、つながる「対話」の場を提供します。

CLCからしだね書店 & カフェ トライアングル  
営業時間 11:00-17:00  
定休日 日曜日と年末年始（※祝日も営業）  
毎月第3木曜日は書店のみ営業



# 子どもと大人のための対話

信仰と哲学  
坂岡 大路

前回までのあらすじ

ここは哲学的な対話を楽しむカフェ「ペレヤ」。「真理」という言葉を使うと権力が発生してしまうので要注意と説くマスター。カフェの常連客(タネオくん&からしきちゃん)との激論は続きます。

タネオくん：「一人議論」がかなり遠回りしたので、ここで一旦最初の疑問

に立ち返りたいと思います。

マスター：ごめんごめん、タネオくん、よろしくお願ひします(笑)

タネオくん：「真理」とは「絶対に正しいもの」として主張される価値のこと。この「真理」は、誰が「それを言っているのか」という主語を隠して主張されるとき、「秩序」の名のイエスが求めていた「秩序」(一人ひとりの存在が等しく大切にされる「アガペー」の世界)ではない。これがマスターの見解ですね。

からしきちゃん：だからこそ、その「真理」って何のため? 「誰のため?」って、根本的に問うていく姿勢が必要なんですよ。

マスター：二人とも的確にまとめてくれてありがとう。「真理」には権力的な機能があるから、その人が言わんとしている「真理」の本質は何か? それは「何のために」主張されているのか? と問い返していく姿勢が大切なんだ。それがなければ……。

からしきちゃん：「判断力を失って、いつの間にか偶像を拝んでいる、なんて

ことになりかねない」ですよ。

マスター：その通りです。二人はどう思いますか?

からしきちゃん：確かに、「これが真理です!」「ほかは全部偶像!」「異論は認めない!」って言われたら、「うっ!」って黙らされちゃうとすっか、「偉い先生」に逆らえなくなってしまうじゃないですか。

タネオくん：「真理」で黙らせる論法は、イエスやパウロの「相手の立場になる」姿勢に矛盾する。つまり、キリスト教の本質である「アガペー(愛)」が欠けてしまう。これがマスターの言いたいことですよね。

マスター：タネオくんは、まだ引かかっているところがありそうですね。タネオくん：だいたいは納得はできたんですが、じゃあ「真理の本質」ってなんなんだろう? と思っています。確かに「権力」っていう側面があるのは否定しません。ですが「真理」はもっとポジティブな意味もあるように思っています。

マスター：いい論点だね。ある哲学者がこんなことを言っている。あえて著者名を隠すので、先入観を持たずに吟味してみてください。私たちの知性に権力と安全の感情を最も多く与える仮説が、この知性によって最も優遇され、尊重され、したがって真と表示されるのではなからうか?

たんじゃなかな。

タネオくん：ええ、それはもう、確信しましたね。

マスター：タネオくんの、「美感」とか「確信」という言葉は、とても本質的だと、ぼくは思ったよ。

タネオくん：そんなにですか? 何気なく言ってみただけなんです。

マスター：種明かししよう。今引用した言葉の作者、それは哲学者のフリードリヒ・ニーチェだ(『権力への意志』からの引用)。

タネオくん：それって「神は死んだ」で有名な、あの!?

からしきちゃん：マスター、クリスチャンなのにそんな人の本を読んで大丈夫なんですか!?

マスター：二人とも落ち着いて! (汗) 読んでもいないのに偏見だけで決めつけるのはいただけないな。でも抵抗を感じるのわかる。ぼくも、ニーチェのキリスト教批判には同意できない部分が多い。

からしきちゃん：全面的に賛成するわけじゃないんですね。

マスター：むしろ、全面的に賛成するようなら、それは哲学的な姿勢ではない!!

からしきちゃん：うわ、びっくりした!

マスター：いいかい。完璧な哲学者なんていないんだ。だからこそ、「はたしてそのとおりかどうか?」「使徒の働き17章11節」と疑問をもち、みんなで批判的に検討していく。そうやって、より説得力のある考えを鍛え上げ、リレーしていく。これが哲学の魂なんだ。

からしきちゃん：「ペレヤの人々」ですね(連載第六回参照)。



生者の渇きを癒してくれる「真理」がそこにある、と感じられ

マスター：タネオくんは確か、学校に居場所を感じられなくなって、そ

こから教会につながったんだね。そうすると、まさに人

生者の渇きを癒してくれる「真理」がそこにある、と感じられ

マスター：タネオくんは確か、学校に居場所を感じられなくなって、そ

こから教会につながったんだね。そうすると、まさに人

生者の渇きを癒してくれる「真理」がそこにある、と感じられ



# 『LGBTQ聖書はそう言っているのか?』

藤本満著 みなみななみ絵 イクスエブックス 2,970円



「キリスト教のG B T Qについての人権感覚は、今の社会の人権感覚からはいぶ遅れている感じがするのですが、結局、キリスト教の人達は、性的マイノリティを、肯定しているの？否定しているの？」  
 という質問を受けました。  
 私はキリスト教の人を代表しているわけではないのですが、私なりに考えて、こんなふうに答えました。  
 「あなたから見ると一つの 카테고리 の中にいるキリスト教の人達も、L G B T Qに関して全く同じ考えに至っているわけではないと思います。キリスト教の人達の人権感覚が社会から遅れているとしたら、キリスト教の人達が、思考停止しているからかもしれません」  
 例えば私は、キリスト教の人達という輪にいるけれども、日本人という輪にもいるし、性自認女性という輪にもいるし、昭和生まれという輪にもいます。いくつもの所属や時代背景、育

**マスター** …… 一旦偏見を取り払って考えてほしいんだが、ニーチェの言い分はこうだ。「真理とは、あなたを力づけてくれたり、安心させてくれたりする説明のことである。」真理の本質」に関するこの説明について、「はたしてそのとおりか?」か「みんなで検討してみよう。」  
 (〽〽)

今回のポイントをまとめましょう。

- ① その人が言わんとしている「真理」の本質(機能)は何か。それは何のために、誰のために主張されているのか。どういったことを問い返していく姿勢が必要。
- ② その姿勢がなければ、「真理」という名の権力にいついかに



さかおか おおこ

1988年京都市生まれ。北海道大学大学院教育学院臨床心理学講座修士課程修了。札幌市内の児童精神科で臨床心理士として勤務。本質学研究会、哲学フラクティクス学会、宗教倫理学会、キリスト教教育学会等の学術誌に論文掲載。札幌市若者支援施設 Youth+ (ユースプラス) でフカモノ哲学カフェを主宰するなど、オンラインや地域で子ども・若者と共に哲学対話を行う活動に取り組む。

操られてしまいうリスクが生じる。  
 ③ 「真理」の本質は「力と安全の感情を与えてくれる仮説である」と、ニーチェは考えた。  
 ④ 哲学者の仮説を無批判に信じているのではなく、「はたしてそのとおりか?」か「検討する姿勢こそが」哲学だ。」

さて、本連載もいよいよ核心に近づいてきました。「真理」とは何か? その本質とは何か? それを根本的に問い詰めるために必要な、哲学の視点とは?

次回はよいよ、哲学的思考の一つの到達点、ニーチェ「力」の原理と、フッサールの「現象学」についてマスターに語ってもらいたいと思います。みなさまもマスターの言うことを、呑み込まず、「はたしてそのとおりか?」吟味していただけたら幸いです。

た環境の輪の中で生きてきました。だから、私たちがL G B T Qについてどのような考えやイメージを持つに至ったかは、キリスト教の人達という輪の中だけでは収まりきれないのです。その時代の社会的・文化的な要素や条件から私がどんな影響を受けてきたか、そしてその影響を受けた私が、性別や性差をどんなふう理解し、考え、行動してきたかも含めて考えないと、全体が見えてこないように思います。そこには、恥ずかしながら、できるなら見ないようにした私自身の「人」に対する偏見や差別感情も含まれています。

さてここで、今、キリスト教会で話題になっている本を紹介しします。キリスト教書店であるならば、この本を無視するわけにはいかないというくらいに、売れている本です。

『L G B T Q 聖書はそう言っているのか?』というタイトルですが、その前提として、「そもそも聖書はどのように読むのか?」について述べられています。以下の例えは、著者の考えをたいへんわかりやすく表していると思います。

**聖書の中心に福音があり、その中心からあらためて聖書全体を見渡すと、時に、福音の響きに反響をよびて見えるテキストもあります。しかし、福音**

音という中心はハロク音楽で言えば「通奏低音」です。この音はいとも響いていて、それに様々な楽器が反応し、時に反発するかのよう音を発しながらも、聖書全体も各箇所も、神の言葉として現代の私たちに語りかけています。私たちは、他の様々な楽器が作り出す音を単独で聴くのではなく、福音という通奏低音と共に聴かなければなりません。(p13~14)

この本は、著者がL G B T Qについてのかかわりや学びの集大成として一冊にまとめあげたものですが、決して著者の考えを押し付けるようなものではありません。クリスチャンがL G B T Qについて悩むとき、そこで思考停止しないための材料をたくさん提示して、考えることを促す本です。とてもわかりやすい言葉で書かれています。読むには時間がかかります。知識と感情と信仰を試されながら、自分自身を整理し、自分と向き合いながら、読まざるを得ない本だからです。

「キリスト教の人たちは、遅れている」と思わされている教会の現状。社会の中にある教会として、クリスチャンではない人から、「それで、あなたは? あなたの教会は?」と質問されるとき、自分の言葉で今の自分の考えを伝えることができるようになるための、一つの軸となる本のよう

\*『L G B T Qとキリスト教 20人のストーリー』平良愛蔵蔵修 日本基督教団出版局、「聖書とL G B T Q」ジェンダーを理解する。フアミリー・フォーラム・ジャパン・CLCからしたね書店便り2022年5月号、2022年7月号





「それでもいい。」から始まること（前編）

『それでもいい。』

自分を認めてラクになる対人関係入門  
細川 貂々 著 / 水島 広子 著（創元社）

1,320円（税込）



『ツレがうつになりまして。』で有名な漫画家の細川貂々さんは、自稱「ネガティブ思考クイーン」です。不安や妬みなどのネガティブな感情や、「どうせうまくいかない」といったネガティブな思考と共に生きてきた細川さんは、なんとか「フツー」の生き方ができるようになりたいと苦労してきたそうです。彼女のそうした悩みを知った知人の紹介で、細川さんは精神科医の水島広子さんに会いに行きます。本書は、そうして出会った二人の対話を細川さんが漫画化したものです。

ネガティブな感情や思考を持つてしまうことをどうにかしたくて、「ネガティブな私なんてイヤなんです!!」と叫ぶ細川さんに對して、水島さんは言います。「ネガティブ思考クイーンだということ」を「ネガティブ」に分類してところがネガティブなのかなど。「ネガティブな自分」から抜け出したいと悩む細川さんがまず始めなければならなかったのは、「ネガティブさをネガティブに捉える」「悩んでいること自体に悩む」という負の連鎖をストップさせるために、「ネガティブな自分」を認めることだったのです。

ここで「認める」ということの意味は、「ネガティブな要素を前向きに捉え直す・解釈し直す」「いわゆるポジティブシンキング」ということではありません。そうではなく、自分の中にあるネガ

「ネガティブな気持ちを感じたら、「自分のセンサーは動いている」と思った上で、それが何を知らせてくれるのか、どうすれば解決できるのかを考えていきたいですね。（40〜41頁、太字原文、以下同じ）」

このように、「自分を受け入れる」とは、ポジティブシンキングで無理に乗り切ることでもなければ、「どうでもいい」と開き直って何も問題がないかのように振る舞うことでもありません。こうした態度は、現実を歪めたり、見ないようにしているので、「ネガティブな要素をそのまま受け入れる」ということになりません。したがって、「現実に基づいて、よりよい方向へと変えていくためにできる具体的な行動は何か」と考えることにつながらないのです。不完全な現状をまず認めるニュートラルな態度からこそ、現実的かつ前向きな変化が始まります。

水島さんは言います。

「今は、これでよい」というのは、怠け心につながると思うでしょうか？  
しかし、人間の変化は、現状の肯定からしかあり得ないのです。今の自分を否定し続けていると、地に足の着いた変化など起こせないのです。（51頁）

これは逆説的で理解の難しい所かもしれません。ふつうは、現状に対して「これでいい」と言うことは、成長の必要性を否定しているように聞こえますし、「これではダメだ」と思うことこそが変化への動機であると考えがちだからです。

しかし、水島さんによると、人間は変えようと思っ て変えられないようなものではありません。むしろ毎日の自分を認めたらうえて、

ティブな要素を、ネガティブなものとしてそのまま受け入れ、そのうえで、そのネガティブな要素を持つている自分を、「それでいい」と肯定することです。水島さんは以下のように解説します。

「怒り」や「不安」、「嫉妬」など、いわゆる「ネガティブ系」の感情を抱くことに抵抗がある、という人は多いでしょうね。人間としてそのような感情を抱くべきではない、自分が人間として小さいような気がする、など、いろいろな理由があると思います。

しかし、感情は、ポジティブなものであるとネガティブなものであると意味があります。（中略）

これらは、身体感覚と同じように、自己防御能力がある人間に備わった、「当たり前の感覚」。自分を守るためのセンサーなのです。

それらの感情に「ネガティブ思考」という名前をつけてしまうと、まるで感じてはいけない感情のように思いますし、自分がそう感じていることを認めたくなくなります。でも、実際には、「自分は怒っている」ということに気づかなければ、「自分は困っている」ということにも気づかず、「誰に助けてもらおうか。どうやってこの困った状況から脱しようか」ということにも考えを進めていけない、つまり自分にとつて困った状況がそのまま放置される、ということになるのです。

その時を精一杯過す結果として、気づかないうちに人は成長しているのです。反対に、生きづらさを抱える人が自分を認められず、「これではダメだ」と考えてばかりいると、変化への出発点である「現在」に立つことができなくなります。その結果、「できない自分」「ダメな自分」にばかり意識が向かい、最も重要な、現在の自分を精一杯生きる」ということに集中することができなくなります。このことについて、水島さんは、以下のように解説します。

人は、成長する存在です。いくら口で「自分は今のままでよいのだ」と言っても、ちゃんと前進するのです。逆に、「今は、これでよい」と思えない人は前進しない、ということを経験から感じています。考えてみれば、現在の自分を肯定することもできず、実のある前進などができるのでしょうか。（17頁）

水島さんとの対話を経て細川さんは、今までの自分が生きづらさを抱えながらも精一杯生きてきたこと、その結果気づかないうちに自分が成長していたこと、そしてその成長は、「いいよ!!」と言ってくれる家族や友人の存在に支えられていたことに気がつきます。そのように自分を捉え直すことで、悩み苦しむことを、「それでいい」と肯定することに積極的な意味を認められるようになったのです。（後編につづく）

\*次回の「読書感想本」では、「引き継ぎ」「それでいい。」を取り上げ、新約聖書に出てくる「タラントンのたとえ」から考えたことを書きたいと思えます。

書店員 G



秋のオンライン  
トークライブ  
第一弾

こどもたちのための  
神のものがたり



・なぜ、この本を作ろうと思ったか？ここにいたるエピソードを語っていただきます。  
・そしてこどもたちに聖書をどんなふう読んでほしいのか？！

森住ゆきさん (ちぎり絵作家)  
大頭真一さん (京都信愛教会・明野キリスト教会牧師)  
安田正人さん (株式会社ヨベル社長)  
どんな話が飛び出すが…?! お楽しみに!!  
場所: CLCからしだね書店&カフェトリアングル

11/21(木) 15:00~

争いや分断の時代にあって、  
「どんな本を出したいですか？」  
「本と対話する私。本を通して人と対話する私」

秋のオンライン  
トークライブ  
第二弾

米本 円香さん (いのちのことは社編集者)  
水野 健さん (フリーの巡回牧師・クリスチャン生活セミナー講師 (著作あり))  
坂岡 恵 (CLCからしだね書店店長)  
場所: CLCからしだね書店&カフェトリアングル

11/22(金) 15:00~

こどものための神の  
ものがたり原画展



森住ゆきさん  
来ます!!  
毎日 11:00  
12:00も来ます!!



11月18日(月)~23日(土祝)  
11:00~17:00

場所: CLCからしだね書店  
〒607-8216  
京都市山科区勤修寺東出町75 からしだね館  
TEL 075-574-1001 FAX 075-574-0025





# 森住ゆき 和紙ちぎり 絵カレンダー 2025

毎月めくるのが待ち遠しい...。  
文字は見やすく、和紙の質感が美しい。  
書店員おススメのカレンダーです。  
日本語と英語の聖句が入っています。

本体価格 1,200円+税

それぞれの作品が  
美しい! かわいい! スパシャイ!!!

使いやすい!!  
読みやすい!!



CLCからしだね  
書店にてご予約  
承ります

## 書: ノート ルダム教育修道女会 シスターアスンタ 福島 チャリティー聖句カレンダー2025



今年、能登の被災地に支援を届けるため  
「チャリティーみことばカレンダー2025」を  
販売させていただきます。  
聖書のみことばを皆様にお届けすると共に、  
経費を差し引いた収益金を送りたいと思います。  
皆様のご理解とご協力をこころより御礼申し上げます。

1,000円(税込)

CLC からしだね書店 住所 〒607-8216 京都市山科区勤修寺東出町75 からしだね館  
TEL 075-574-1001 FAX 075-574-0025 電話メール clc@karashidane.or.jp



カフェ  
トライアングル からのおしらせ

クリスマスのプレゼントにいかがですか?

クロスステッチ  
ブローチ  
大: 500円  
小: 400円

## 2024年ノーベル平和賞の ニュースを聞いて思い出した本のこと



### 『ヒロシマの少年 じろうちゃん』

作: やまだみどり / 絵: みなみななみ  
【リプロス、星雲社 税込1100円】

2011年3月の東日本大震災で東電福島第一原発は重大事故を起こしました。多くの人々が生活を破壊され、故郷を追われ、未来を失うという大惨事です。事故のあと始末は13年たった今もほとんど進んでいません。有害な放射能が消えるまでには何万年もかかるとのこと。地震津波の危険性があれほど言われていたのに、どうして、こんな愚かな結果を私たちの国は招いてしまったのでしょうか。ヒロシマ、ナガサキを経験した私たちに。

ヒロシマの少年、じろうちゃんは、戦争中広島に落された原子爆弾の犠牲者でした。残酷な地獄のような経験をした人です。でも、大きくなるまでずっと黙っていました。いろいろなことがあったのでしょう。

ところが、あのフクシマの事故を見て思ったそうです。黙ってはいけません。昔の少年ももう80歳のおじいさんになっていました。でも、語り出したのです。自分の体験したことを。どんなに悔んで悲しい経験だったか。そして、こんな怖ろしい核兵器は絶対にダメだっていうことを。私たちは過去に学ばなければならないということ。この絵本は、そんな少年の物語です。

今年のノーベル平和賞に決まった日本原水爆被害者団体協議会(被団協)は、長い間当事者として、被爆体験を語り継ぎながら、核廃絶を訴えてきました。被団協が求めてきたものは、自分たちへの補償でも、投下したアメリカの責任追及でもありません。ただ、同じ悲劇が繰り返されないようにということ、核のない平和な世界を目指そうということ、「ノーモア・ヒロシマ、ノーモア・ナガサキ、ノーモア・ウオー」でした。

それにしても、今パレスチナで起きている惨状は何なのでしょう。被団協代表の箕牧さんはインタビューで、「ガザでの紛争で傷つた子どもたちと、原爆孤児の姿が重なる」とおっしゃっていました。日本に原爆が落とされた第二次世界大戦では、ナチによるユダヤ人の大量虐殺(ホロコースト)がありました。同じようなことが、どうしてまた繰り返されるのでしょうか。「ノーモア・ホロコースト」と叫ぶ声はどこに聞こえるのでしょうか。



(坂岡隆司)



# 古書献本のお願い

たいへん申し訳ございませんが、送料をご負担いただけるとありがたいです。(受付できないものもありますので事前にお知らせください)



百科事典・辞書・開封済みのCD・DVD・月刊誌・週刊誌、自分史・教会の記念誌などは受け付けておりません

## 【献本をお願いしたい本の種類】

- 1 キリスト教書、キリスト教に関連した本(多少、書き込み等があっても、大丈夫です)
- 2 哲学、心理学等、人の生き方に関する本
- 3 社会の中で起きている問題を扱った本
- 4 暮らし(料理、健康、経済等)にかかわる本
- 5 小説(人の暮らし、尊厳、生き方を表現したものであればジャンルを問いません)
- 6 漫画(人の暮らし、尊厳、生き方を表現したものであればジャンルを問いません)

## 【本の送り先】

住所：〒607-8216 京都市山科区勤修寺東出町75 からしだね館  
宛先：CLC からしだね書店 献本係 電話：075-574-1001 FAX：075-574-0025  
Mail：clc@karashidane.or.jp

## 【本と一緒に以下の内容を記入したメモをお願いします】

①献本者のお名前②ご住所③お電話番号④メールアドレス⑤さしつかえなければ、献本者の簡単なプロフィールをお願いします。

## 【献本感謝】

トムセン千香子様 野崎泰子様 深谷与那人様 平林けい子様 新崎富晴様 佐野弘子様(順不同)

9月の古書の収益は22,056円でした。

【古本の売上を含むCLCからしだね書店の収益は、書店で働く障がい者の工賃になります】  
献本くださった方のお名前を書店便りにご紹介させていただきたいと思っております。匿名ご希望の方は、お知らせください。ご寄贈いただいた皆様、ありがとうございました。

## 編集後記

◆来年のカレンダーや手帳が入荷してきました。真新しい余白に、希望に満ちた言葉を書き込んでいけたらいいなと思います。◆2023年に書店便りに連載した大頭真一牧師と森住ゆきさんの「こどものための神のものがたり」(1,100円税込み)が、本になりました。好評発売中です。子どもたちが、神様のことを大好きになってほしい、という願いを込めて作ったものですが、大人と子どもでいろいろなお話をしながら、読んでいただきたい一冊です。世界のあちこちで起きている戦争が、一日も早く終わりますように。子どもたちのいのちが護られますように。◆地震に次いで大雨で、被害を受けられた能登の皆様のことをおぼえ、お見舞い申し上げます。私にできることは何か?考え続けたいと思います。【店長】

編集・発行：社会福祉法人ミッションからしだね  
就労継続支援B型事業所からしだねワークス  
からしだね書店&カフェ・トライアングル

〒607-8216 京都市山科区勤修寺東出町75 からしだね館  
書店電話番号 075-574-1001 FAX 075-574-0025  
書店メール clc@karashidane.or.jp



CLCからしだね書店便りの  
バックナンバーはこちらから